登録室リレー随筆

福井県立病院 病理診断科　海崎 泰治

福井県がん登録室といえば・・・

福井県（地域）がん登録といえば、日本一の精度を有する地域がん登録としての評価を長らくいただいている。最近の2012年モニタリング集計においてもDCO 1.6%, IM比 2.35の高い精度を保ち続けている。この高い精度は福井県がん登録の初期から継続されたものであるが、簡単にこのような評価が得られるようになった訳では決してない。今回、高い評価を得つづけている福井県がん登録の今昔について、「福井県がん登録といえば・・・（あるある）」という切り口で考えてみたい。

福井県がん登録といえば、福井県医師会の主導により1984年に始まっている。疫学専門の先生方の呼びかけで始まったものとは異なる。当初、登録室は本当に県医師会にあった。のちに県庁などを通過し、現在では福井県立病院内に設置されている。登録票が福井県医師会に提出され、その後登録室に回り道をするかのように運ばれる形となっているのは意図的に医師会関与のシステムを残しているからに他ならない。

福井県がん登録といえば、初期には診療所からの自主的な届出が多いものの、現在の拠点病院クラスの自主的な届出は少なく、関係者が手弁当で出張採録に訪問していた。また、業務に熱心になりすぎたあまり、予後を把握するために患者の自宅にまで訪問するという今ではとても考えられないようなこともあったようである。

福井県がん登録といえば、県庁内に登録室があった時代には、とある課内の衝立で囲まれたわずかなスペースが登録室で、登録情報がいつ漏れ出しても仕方がない状況であった（幸いにも情報漏えいは起こらなかったが）。

福井県がん登録といえば、当初から現在にいたるまで疫学専門の医師の関わりはない。医師としてがん登録業務に関わったのは福井県立病院院長になられた外科の山崎先生（ご冥福をお祈りいたします）、内科の藤田先生、外科の服部先生とそうそうたる臨床医の面々であった。今現在はなぜか病理医の私が関わっている。

福井県がん登録といえば、がん登録情報を利用した研究報告が多数なされている。特にがん検診の精度に関する報告が多く、胃内視鏡検査の偽陰性率を算出した報告は衝撃的で、全国版新聞の一面トップに掲載された。

福井県がん登録といえば、登録情報を用いた研究報告は多いものの、福井県のがん医療に貢献するデータがなかなか提供できていない。そのためもあってか、親元（福井県庁）からの信頼は薄く、予算はなかなかつかない、登録実務者は毎年簡単に交代させられるなど、全国がん登録開始に向けて、安心して業務が遂行できない危機的状況に陥りかけた。

福井県がん登録といえば、こんな状況にもかかわらず、日本一の精度を保ち続けているが、今後は、精度日本一は当たり前で（全国がん登録になってうまくいくのかちょっと不安だが）、（不足したマンパワー、不足したモチベーションをものともせず）福井県民のためになるようなデータ利用、研究利用も日本一と言われるようにしていきたいと考えている。